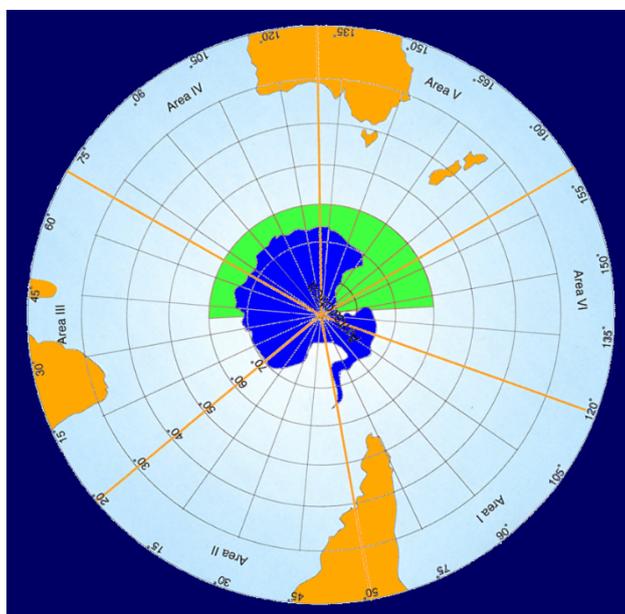


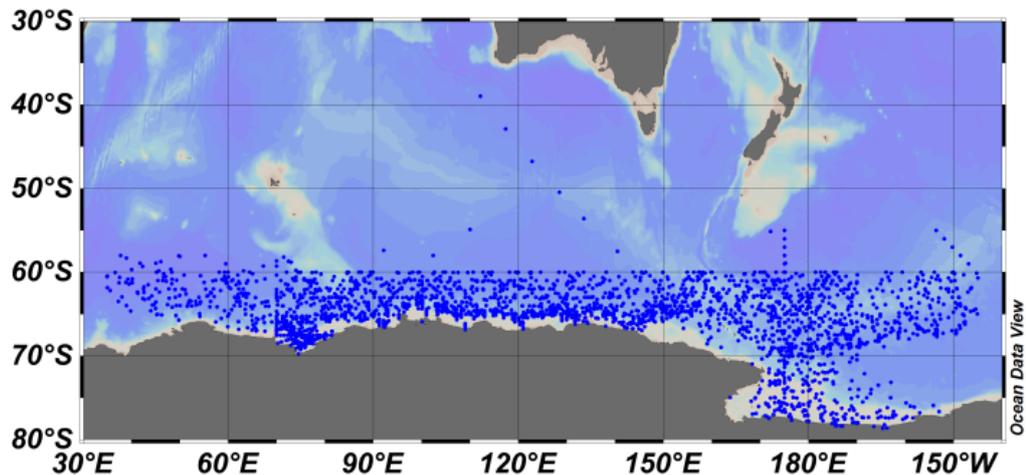
## 南極海鯨類捕獲調査(JARPA、JARPA II)で収集した海洋観測データを研究者に公開します

- 日本は特別許可の下で南極海鯨類捕獲調査(JARPA)及び第二期南極海鯨類捕獲調査(JARPAII)を実施してきました。
- JARPA は 1987/1988 年から 2004/2005 年までの 18 年間実施しました。JARPAII は 2005/2006 年から開始しました。これらの調査は南半球の夏期に実施しました。これら調査計画で得られたデータや調査結果は、国際捕鯨委員会の科学小委員会により定期的に評価されてきました。
- JARPA 及び JARPAII 調査計画は、南極海における鯨類とそれらを取り巻く生息環境を研究するために、非致死的方法(目視調査、海洋観測、バイオプシー採集、個体識別用外部形態写真、計量魚探によるオキアミ生物量)と致死的方法(限られた数のクロミンククジラ及びナガスクジラの採集と生物学的調査)の両方を含んでいます。
- 調査海域は、南緯 60 度以南、東経 35 度から西経 145 度までの海域で、南極海のおよそ半分の海域をカバーしています(下図の緑色の海域)。



- この調査海域において、海洋観測データが、20 年間以上にわたって計画的に収集されました。延べ 2,500 件におよぶ海洋観測プロフィールは、XBT(水深毎の水温プロフ

ファイル)及び XCTD/CTD(水深毎の水温と塩分プロファイル)により、下記の図で示す観測点で収集しました。



- 長期間にわたり計画的に収集したこれら海洋観測データは、南極海における環境変動、特に調査海域における温暖化の有無を調べる観点からも重要なデータです。
- また、南極海に生息するヒゲクジラ類や鰭脚類、鳥類および魚類の主要な餌生物であるナンキョクオキアミ(南極海生態系の鍵種)の分布の変動や資源動態を研究する上でもこれら海洋観測データは重要であると考えます。
- 日本鯨類研究所は、このように長期にわたり収集した海洋観測データの重要性に鑑み、今回これらデータを公開(フリーアクセス)することとしました。JARPA および JARPAII で収集された海洋観測データは[こちら](#)です。なお、これらデータの使用にあたっては、いかなる目的の場合においても(一財)日本鯨類研究所が海洋観測データの取得機関であると明示することをお願いいたします。
- これら海洋観測データの他に JARPA および JARPAII で長期的かつ計画的に収集された鯨類に関する生物学的なデータやその生息環境に関するその他のデータも存在しますが、これらは日本鯨類研究所の[データアクセス・プロトコール](#)を通じて、国内外の科学者が利用できるようになっています。なお、当研究所では、将来、これら科学データも公開(フリーアクセス)することを検討しています。